

科目名	感情・人格心理学	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群		
			法律学科	□ 必修	■ 選択
			学科	□ 必修	□ 選択
英文表記	Psychology of Emotion and Personality	開講年次	□ 1年 ■ 2年 □ 3年 □ 4年		
		開講期間	□ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中		
ふりがな	せと ひろし	実務家教員担当科目	○	修得単位	2単位
担当者名	瀬戸 泰	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用		
授業のテーマ	「人間は感情の動物である」といわれるように、私たちは日々、喜怒哀楽といった「感情」をもち、その影響を受けながら生活を送っています。また、もう一つの大きな話題である「人格」(人となり)も、全員に備わっているものです。本授業では、そのように私たちにとって身近な感情や人格を取り上げ、自身や他者の感情・人格について理解を深めることをテーマにします。				
到達目標	1. 感情および人格心理学に関する代表的な理論や考え方を理解し、説明することができる。 2. 学習した内容を、自らの心や日常生活に当てはめて確認・考察できる。				
授業概要	座学を中心に、感情・人格心理学に関する基本的な内容を取り扱います。また、実際に様々な感情や性格に関する質問紙等に回答していくことを通じて、皆さん自身の感情や性格等についても理解を深めていけるよう授業を進めていきたいと思ひます。				
授業計画					
第1回	イントロダクション	(授業の概要、感情とは、感情の機能と表出)			
第2回	感情の種類と生起	(基本的感情説・次元説、感情はどのようにして生じるのか)			
第3回	様々な年代と感情の発達	(感情発達理論、青年期と感情、中高年と感情、高齢者と感情)			
第4回	自己評価と感情	(自尊感情、セルフコンパッション、孤独感)			
第5回	感情の測定	(質問紙法、生理的指標、実際に質問紙に回答してみよう)			
第6回	認知・意思決定と感情	(感情は記憶にどう影響するか、人は感情に動かされている?)			
第7回	感情制御と感情の障害	(感情のマネジメント、レジリエンス、情動知能、気分障害)			
第8回	アドラーとポジティブ心理学	(感情には目的がある、主観的幸福感)			
第9回	身体と感情	(脳と感情、ソマティックマーカー仮説、睡眠と感情、運動と感情)			
第10回	人格	(人格とは、一貫性論争、類型論・特性論・作業検査法)			
第11回	ビッグ・ファイブ理論	(5つの性格、ビッグ・ファイブと様々な心理特性)			
第12回	類型論	(コラージュ、バウムテスト)			
第13回	対人関係と人格	(好かれやすい性格はあるのか、ダーク・トライアド)			
第14回	人格の発達	(発達段階理論、愛着理論、性格は遺伝か環境か)			
第15回	人格と疾患	(パーソナリティ障害、タイプA・C、自己理解と心理療法)			
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	学習内容の定着を図るため、毎回、復習を行うようにしてください(1時間程度)。授業で学んだことを、日々の経験や日常生活で意識的に当てはめ、考察・活用できるよう努めて下さい。				
履修条件 受講のルール	履修のための条件はありません。				
テキスト	毎回、講義用レジュメを配布します。				
参考文献・資料	川畑直人(監)ほか『感情・人格心理学「その人らしさ」をかたちづくるもの』(ミネルヴァ書房、2020年)				
成績評価の方法	試験70%、毎回のコメントシート30% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試				

	<p>験を受けることができません。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>毎週月曜日・水曜日 10:30~12:00 ※上記以外の時間帯でも、研究室に在室中であればお声がけください。 E-mail : seto@nau.ac.jp</p>
<p>成績評価基準</p>	<p>秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p>
<p>実務経験及び 実務を活かした 授業内容</p>	<p>心理職(公認心理師、臨床心理士)として相談実務に携わってきました。様々な悩み・相談事の背景には、感情や人格の問題が絡んでいることが多く、具体的な事例等も紹介していきたいと思ひます。</p>
<p>学生への メッセージ</p>	<p>私達には皆、感情も人格も備わっており、誰もが感覚的にそれらについて知っているはずでず。ただ、身近なはずの感情も人格も、いざ説明しようとするとなかなか難しいのではないでずしょうか。つまり、分かっているようであまり分かっていない感情や人格という存在。それらを学ぶことは身近で興味深く、日常生活にも活かしていけることが多いのではないかと思ひます。</p>